



地域連携だより

医療・介護関係者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染対策を行いながらの業務に大変お忙しく、また緊張した毎日をお過ごしのことと思います。医療機関・介護施設での面会制限、顔を合わせての会議や連絡調整の難しさなど、高齢者を取り巻く環境や私たちの日常業務にも多大な影響がありました。

このような環境下だからこそ、医療・介護関係者が連携・協働し、高齢者が住み慣れた地域で最期まで自分らしく生活できるよう支援していくことが大切ではないかと感じています。

市内の医療・介護関係者が顔の見える関係づくりをする場として平成29年度から毎年実施してきた「在宅医療・介護連携研修会」ですが、今年度は従来どおり会場にお集まりいただいたの開催が難しく、オンラインでの開催となりました。内容について一部ご紹介しますので、ぜひご覧ください。

第8回 在宅医療・介護連携研修会 令和3年2月5日(金)



第8回研修会では、香川県立保健医療大学、看護学科長の片山陽子教授を講師にお迎えし、「アドバンス・ケア・プランニング～私らしく人生の最期まで生きるために～」をテーマにご講演をいただきました。

アドバンス・ケア・プランニングとは、人生の最終段階においてどのような医療・ケアを望むのか、家族や医療・介護関係者等と一緒に前もって考え、繰り返し話し合い、共有しておくことです。

そのため、今回の研修会は市民の方と医療・介護関係者の方がともに学ぶ機会として企画し、市民35名、医療・介護関係者43名の出席がありました。住み慣れた地域で最期までその人らしく生きることを実現するため、今後も市民の方と医療・介護関係者の方が在宅医療と介護の連携についてともに学び考える機会を作りたいと思います。

片山先生のご講義



参加者の声

- ❁「一人で決めるのではなく、家族と話し合いを重ねておくことで、自分も残された家族も満足できることを知った。」(市民の方)
- ❁「人と話すことで頭の中が整理できる。大切な人と話し合う機会をもちたい。」(市民の方)
- ❁「日常のささいな会話やひとことから、ご本人の意向をくみとることが大切だと思った。」(医療関係者の方)
- ❁「なぜそうしたいのか、なぜ嫌なのか、その人の思いを大切にすることを持って介護したい。」(介護関係者の方)

◆◆◆ 人生の最期は、どこで迎えたいですか？ ◆◆◆

普通寺市地域包括支援センターでは、77歳の方を対象にアンケート調査を実施しました。その中で、「人生の最期はどこで迎えたいですか？」とお聞きしたところ、結果は**自宅が75%**と最も多く、次いで**病院13%、施設9%**でした。その他、「この中からは選べない。」と回答された方や未回答の方もおられました。

平成30年の調査時は自宅と回答された方は61%で、自宅で最期を迎えたいと思っている方が増えていることがわかります。「なぜ自宅で最期を迎えたいとおられるのか。」「自宅でどんなふうに過ごしたいとおっしゃっているのか。」おひとりおひとりのお話を聞いてみたいなと思いながら回答用紙を拝見しました。

このような願いをかなえるため、医療・介護関係者は日々の関わりの中で患者・利用者に寄り添い、ご本人・ご家族の意向を汲みとること、お互いが連携・協働して、医療と介護の両方を必要とする高齢者の生活を支えていくことが大切だと感じています。



第9回 在宅医療・介護連携研修会 令和3年2月25日(木)



第9回研修会では、ひまわり薬局普通寺、薬剤師の筈篠紀子先生を講師にお迎えし、「調剤薬局薬剤師からみた在宅医療・介護連携について」をテーマにご講演をいただいたあと、ZOOMのミーティング機能を使用してグループワークを行いました。

グループワークでは事例をとおして、対象者がのぞむ生活に思いをめぐらせながら、生活全般の課題やそれを解決するための支援について話し合いました。

ここがすごい！

●● 筈篠先生のお仕事！！

来同時の患者さんの様子を継続的に観察しているからこそ、低栄養、認知機能低下、閉じこもりによる筋力低下等の変化に気づくことができる。

患者さんの生活状況をよく聞きとり、個別性のある指導を行う。

★食事がとれないと内服も忘れがち。

→食事のアドバイスと服薬指導を合わせて実施。

★デイサービス利用者には、一包装した薬包に【日付、氏名、薬剤名】を印字。

→誤薬予防や、スタッフとの情報共有にもつながる。

★貼り薬は「夜、お風呂の後貼りかえ」と一律に指導するのではなく、デイサービス等で入浴する方に配慮した指導。

★物忘れについては薬剤師からはふれにくい。

→きっかけづくりのため独自に作成したチェックリストを設置。

在宅医療・介護・認知症情報マップを設置し、

相談窓口の情報提供。

筈篠先生のご講義



グループワーク



みなさま、ぜひご活用ください！

普通寺市内の医療・介護・認知症に関する情報をひとまとめにした冊子です。

必要な方は、地域包括支援センターまで。



普通寺市地域包括支援センター（高齢者課内）

TEL (0877)63-6364 FAX (0877)63-3778

Mail houkatsu@city.zentsuji.kagawa.jp